

「参加してみたいけど、どう進めたらいいかわからない。」
「地域の課題を考える？なんか難しそう。」
という皆さんに簡単なアドバイスをまとめてみました。
参考になると嬉しいです。



地域課題 1 「令和 2 年 7 月豪雨の被災地域における地域の持続に必要な取組みについて」

○市町村をひとつ選ぼう

八代市、人吉市、芦北町、錦町、あさぎり町、多良木町、湯前町、水上村、相良村、五木村、山江村、球磨村、津奈木町から地域課題解決に取り組んでみたい市町村をひとつ選んでください。行ったことがある地域、行ってみたい地域、住んだことがある地域、知り合いの出身地、今年の豪雨の被害が気になる地域など、どんなきっかけでもいいので、まずは地域を選ぶところから始めてみてください。

○令和 2 年 7 月豪雨について振り返ってみよう

ご承知のとおり、これらの地域は甚大な被害をうけました。選んだ地域がどのような被害を受けたのか、その後どれくらい復旧しているのか、調べてみましょう。それと同時に、その地域の特徴も詳しく調べてみましょう。（人口、産業、交通、気候など）

○災害以前からある課題とは

都市圏に人口が集中する反面、これらの地域は人口減少、経済活動の縮小などの課題も抱えています。今回の災害によりさらなる人口流出が懸念されています。一方でこの地域に愛着があり、ずっと住み続けたい住民の方も多くいらっしゃいます。どうしたら、これらの地域が存続し、次世代へ引き継がれるのでしょうか。

○地域の課題を見つけ、解決策を考えよう

そんな厳しい状況から復旧・復興し、これからも発展し続けるために、各市町村は「復旧・復興計画」を策定しています。またその計画について住民からの意見もまとめています。（各市町村のホームページに掲載してあります）これらの「復旧・復興計画」を参考に、市町村や住民が何を求めているかを探り、地域の課題を見つけてください。そして、その地域の特徴を踏まえて、解決策を考えてみてください。

○地域の人たちの声を聴くことができます

地域について調べていくうちに、「○○について詳しく知りたい」「住民の話を聴いてみたい」となったら、県の担当者を通して、ディスカッションの機会を設けることができます。これらの地域では学生の皆さんと普段じっくり話す機会がなく、話をしてみたいという地域の方も多くいらっしゃると聞いています。希望する方は遠慮なく、大学コンソーシアム事務局までご連絡ください。



地域課題 2 「大規模災害（津波、高潮、地震、洪水等）時の避難方法について」



○熊本地震から5年が経ちました

皆さんは当時、中学生や高校生だったでしょうか。ご存じの方も多いと思いますが、熊本地震の際、多くの大学生がボランティア活動に参加し、活躍しました。学生自身で組織を作り、何をどうすべきかを考え、避難所等で被災者の支援にあたった学生さん達もいました。今度は大学生・短大生・高専生になった皆さんに、「避難方法について考える」ことで地域に貢献し、活躍してもらいたいと考えています。

○ハザードマップとは

大雨、台風、地震などの自然災害による被害を予測し、その被害状況を地図化したものです。熊本市の取組として市民が災害発生時のリスクを事前に把握し、いざという時に行動できるよう、昨年熊本市全戸にハザードマップが配布されました。令和3年度からスマートフォン版のハザードマップも公開され、GPS機能がついているので現在地の災害リスクを簡単に確認できるようになりました。県内各市町村でも配布、ホームページ上に掲載されています。ハザードマップには災害や避難に関する情報が満載です。必見、必読です。

○防災情報（ハザードマップ、防災情報ポータル）を確認してみよう

まずはハザードマップを活用して自分が住んでいる地域や学校のある地域の災害リスクを調べてみましょう。次に、熊本市防災情報ポータルを活用し、「現在地」を選択して最寄りの避難所までのルートを確認してみましょう。防災情報ポータルは災害時には避難所の開設状況・混雑状況も確認できます。

○地域によって被害の内容は違う

他の地域にも目を向けてみましょう。地域によって受ける被害の種類は様々です。海の近くでは津波、川の近くでは洪水、山の近くでは土砂災害、またいくつかの災害が同時に起きるなどいろんなケースが考えられます。想定される被害の種類や大きさに合わせて避難の方法を考えてみましょう。

○誰も逃げ遅れないように

避難のタイミングも非常に重要です。自治体は警戒レベルを1～5まで設定し、想定される被害に応じて、避難を呼びかけます。避難の際、高齢者の方についても考えてください。学生の皆さんと同じように行動できるでしょうか。同様に小さなお子さんがいらっしゃる方、一人暮らしの方、人口が少ない地域に住む人々はどうでしょうか。

○自分の命、身近な人の命を守るために

このように、ひとくちに避難方法を言っても地域によって、災害によって、そこにどんな人々が暮らしているかによって違います。また災害の大きさによっても違います。何より、発災時に落ち着いて行動するには、事前の準備、普段からの心構えが大切です。熊本地震から5年の今、災害から自分の命、身近な人の命を守るための避難方法について考えてみませんか。